

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名称	経営本部 総務部 施設管理課
	電話番号等	03-3570-0201
公表の 担当部署	名称	経営本部 総務部 総務課
	電話番号等	03-3570-0397

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス： http://www.jfcr.or.jp
	窓口で閲覧	閲覧場所：
		所在地：
		閲覧可能時間
	冊子	冊子名：
入手方法：		
その他	アドレス：	

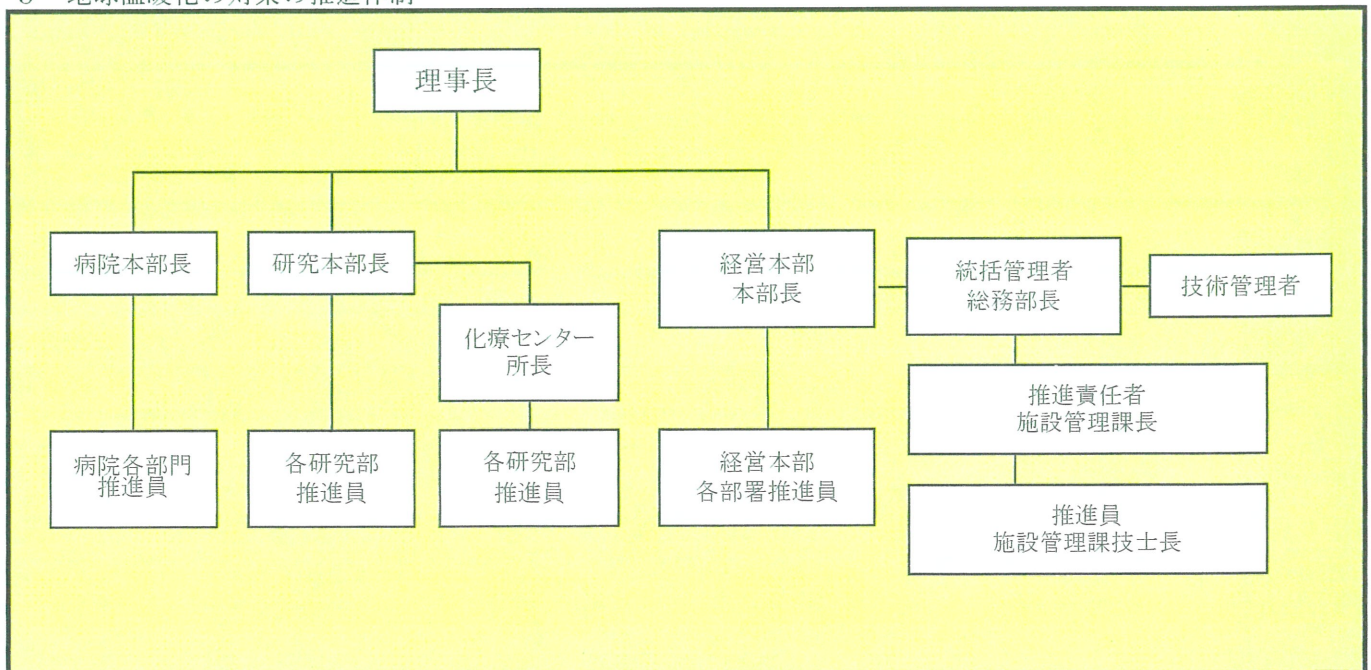
(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の使用開始年月日	2005	年	3	月	1	日
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度							

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

「公益財団法人がん研究会はがん克服をもって人類の福祉に貢献する」という基本理念のもと、高質な医療環境並びに国際的研究環境の確保を前提として、地球環境への負荷を軽減すべく無駄の無い設備・機器の稼働を図る。
 移転開院から10年経過したことから、熱源機器の運転最適化、照明のLED化を継続して実施する。あわせて現状設備での空調機や空調ポンプの運転最適化による省エネを図っていく。あわせて、職員への省エネ啓発活動による運用改善を一層強化していく。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2015 年度から 2019 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	空調設備等について老朽化したものから順次効率を考慮した設備に更新して第二計画期間の削減率(11%)達成を目標とする。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	節水コマ、節水シャワーを基準年度内に実施している。使用者への節水啓発により、水の使用量を削減することで、水道・下水道使用に伴う温室効果ガスの削減を図る。		
削減義務の概要	基準排出量	14,861 t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I-2
	排出上限量（削減義務期間合計）	65,245 t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	11%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	空調設備等について老朽化したものから順次効率を考慮した設備に更新して次期計画期間の特定温室効果ガスの削減を図る。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	使用者への節水啓発により、水の使用量を削減することで、水道・下水道使用に伴う温室効果ガスの削減を図る。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特定温室効果ガス（エネルギー起源CO ₂ ）		12,731	13,316	13,288	13,774	
その他ガス	非エネルギー起源二酸化炭素（CO ₂ ）					
	メタン（CH ₄ ）					
	一酸化二窒素（N ₂ O）	37	72	36	72	
	ハイドロフルオロカーボン（HFC）					
	パーフルオロカーボン（PFC）					
	六ふっ化いおう（SF ₆ ）					
	三ふっ化窒素（NF ₃ ）					
	上水・下水	87	91	94	85	
合計	12,855	13,479	13,418	13,931		

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/m²・年

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
延べ面積当たり特定温室効果ガス年度排出量	156.4	163.6	163.2	169.2	

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（2005年度、2006年度、2007年度）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

前削減計画期間	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
変更年度		○			

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I-2
----------	-----

(4) 削減義務期間

2015年度から	2019年度まで
----------	----------

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	13,861	14,861	14,861	14,861	14,861	73,305
	削減義務率 (B)	11.00%	11.00%	11.00%	11.00%	11.00%	
	排出上限量 (C = ΣA-D)						65,245
	削減義務量 (D = Σ(A × B))						8,060
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	12,731	13,316	13,288	13,774		53,109
	排出削減量 (F = A - E)	1,130	1,545	1,573	1,087		5,335

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input type="checkbox"/> 設備の増減	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	2018年度は下記要因により病院内エネルギー需要が増加したため、特定温室効果ガスの排出量が増加した（前年度比 約3.7%増加）。 <ul style="list-style-type: none"> ・外来患者数の増加（前年度比 約2%増加） ・CGSが故障により長期間停止（約1年間）したため、ガス使用量の減少分以上に外部から購入する電力量が増加 		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
			【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】		
1	120200	12_冷凍機の効率管理	手術室未使用時の空調停止	2009年度	
2	130100	13_空気調和の管理	冷水供給温度の変更	2009年度	
3	120400	12_補機の運転管理	温水供給温度の変更	2009年度	
4	130100	13_空気調和の管理	空調機制御パラメータ（設定温度、制御弁開度）の変更	2009年度	
5	120500	12_熱搬送設備の運転管理	温水ポンプの中間期および夏期の夜間モード設定による運転台数削減	2009年度	
6	120300	12_運転管理及び効率管理	省エネファンベルトの導入	2008年度	
7	130100	13_空気調和の管理	省エネファンベルトの導入	2008年度	
8	150200	15_照明設備の運用管理	手術室の無影灯のLED化による電力使用量の削減	2009～ 2010年度	
9	150200	15_照明設備の運用管理	無影灯のLED化による発熱量削減による空調負荷の低減	2009～ 2010年度	
10	150200	15_照明設備の運用管理	玄関ドア1台停止したことによる外気量削減による空調負荷の低減	2010年度	
11	130300	13_換気設備の運転管理	外来空調機の運転時間短縮	2011年度	
12	130200	13_空気調和設備の効率管理	廊下への遮光ロールスクリーンの設置	2012～ 2014年度	2014年度も6、7、8、9階病棟南側廊下に設置
13	130200	13_空気調和設備の効率管理	地冷受入時の冷水熱交換器の断熱	2013～ 2015年度	
14	150200	15_照明設備の運用管理	LED化による電力使用量の削減	2014年度	蛍光灯36wをLED13.5wに交換。208本実施。
15	150200	15_照明設備の運用管理	LED化による発熱量削減による空調負荷の低減	2014年度	208本の蛍光灯36wをLED13.5wに交換した際の空調負荷低減。

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
16	160200	16_建物の省エネルギー	時間外自動扉（守衛所前）のタッチスイッチ化	2014年度	時間外玄関に外側、内側の自動扉が設置されているが、2枚の扉が同時に開き難くするため1枚の自動扉を人感センサーからタッチスイッチ式にし、風除室としての効果を高めた。
17	150200	15_照明設備の運用管理	LED化による電力使用量の削減	2015年度	蛍光灯（32W等）をLED照明（16.7W等）に更新（1150本）。
18	150200	15_照明設備の運用管理	LED化による電力使用量の削減	2016年度	蛍光灯（35W等）をLED照明（15.7W等）に更新（855本）。
19	150200	15_照明設備の運用管理	LED化による電力使用量の削減	2018年度	蛍光灯（32W等）をLED照明（16W等）に更新（3314本）。
20					
21					
22					
23					
			【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスに充当する場合のみ記載）】		
51					
52					
53					
			【排出量取引の計画及び実施の状況】		
61	180100	18_排出量取引		2019年度	
62					
63					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

公益財団法人がん研究会は病院及び研究所からなる財団として、高度な医療や国際的ながん研究で社会に貢献している。高質な医療環境並びに国際的研究環境の確保を前提として、地球環境への負荷を軽減すべく無駄の無い設備・機器の稼動を図るとともに、省エネへの啓発活動を実践している。

1. 省エネ対策

移転開院から10年以上、現状設備での空調機や空調ポンプの運転最適化による省エネを継続して行っている。2009年度には、冷温水供給温度の変更や空調機パラメータの設定などのチューニングを実施した。また、ベルトの交換、照明のLED化により電力の削減に努めるとともに、2018年度は給湯用熱交換器の定期整備（清掃及び補修）を行うなど省エネ対策を実施している。

2. 啓発活動

- ・省エネ委員会を設置しており、定期的に委員会を開催して、省エネ対策の進捗状況や今後の対策について検討を行っている。
- ・従業員の節電意識向上のために、イントラネットにて電気使用量の見える化を行っている。
- ・職員のみならず、来院される方々へも当院の省エネ対策にご理解、ご協力いただけるよう各種掲示を行っている。

3. 節電対策

- ・震災による社会的節電要請に応えるべく、当事業所のガスコージェネレーションの運転時間を可能な限り延長した。また、廊下等の共用部照明の間引きも行い電力負荷削減の面でも平準化に寄与している。